

ゼロからの神経伝導検査 ― ハンズオン ―

純真学園大学 保健医療学部 検査科学科 片山雅史

本ハンズオンでは、四肢の代表的な神経の神経伝導検査について解説・実演する。演者は臨床現場から離れて10年が経過し、最新の情報について縁遠くなっていることは否めないため、新たな技術や制度に関する情報提供については、現場で活躍する現役に委ねたいと思っている。今回は、普段大学生を対象として講義をしている内容、レベルでの解説となる。

現場における中堅以上の技術者は、大学を卒業し、国家試験に合格したばかりの新人教育を担う立場であると思われる。本企画では、医療現場において今も変わらず重要とされる「基本的な作業」に焦点を当てる。

対象となる作業は、神経走行の確認、神経刺激の基本、電極配置・波形の記録、および患者とのコミュニケーションなど、医療現場の日常業務において頻繁に行われるものである。これらは高度な専門技術を要するものではないが、検査結果の精度や患者の安全確保において極めて重要な役割を果たす。特に新人教育においては、こうした基本作業を丁寧かつ的確に指導することが、個々の成長と現場の質の向上に直結する。

講義では、基本作業の教育におけるポイントとして、「なぜその作業が必要なのか」「どのように伝えたと理解されやすいか」といった視点を重視し、指導時に陥りやすい誤解や見落としについて、演者自身の経験をもとに具体的に紹介する。また、実技指導では、実際の機器を用いて、手順の確認や指導の工夫を体験的に学ぶ機会を提供する。特に「教える側」としての視点を重視し、言語化・可視化・フィードバックの方法など、教育技術にも触れることで、参加者が自らの指導力を客観的に見直すきっかけとなることを目指す。

本企画は、現場で新人教育を担う者が、自信を持って基本作業を教えられるよう支援することを目的としており、医療現場の安全性と教育体制の強化、人材育成の質的向上に寄与することを期待している。